

自分と大切な人の命を守る 日ごろからの防災対策

2025年度下期
市長と語ろう会（地域団体向け）

I 近年の日本の大災害と、千葉市で想定される大災害

II 高潮への対策

III 市の取り組み

IV 家庭での備え

V 地域での助け合い

近年の日本の大災害

令和 6 年能登半島地震

①発生時刻 2024年1月1日 16時10分頃

②地震の規模 マグニチュード 7.6

③最大震度 震度7：志賀町、輪島市

④被害

- ・避難生活の長期化に伴い、直接死を上回る災害関連死が発生
- ・広範囲かつ長期の断水に伴い飲料水や生活用水（トイレ）に影響

【地震】

発生年月日	震央地名・地震名	M	最大震度	死者・ 行方不明者数
1995年1月17日	阪神・淡路大震災	7.3	7	6,437人
2011年3月11日	東日本大震災	9	7	19,729人
2016年4月16日	熊本地震	7.3	7	273人

【風水害】

発生年月日	災害名	被災場所	死者・ 行方不明者
2018年7月	平成30年7月豪雨	広島県、岡山県 他	232人
2024年9月	奥能登豪雨	石川県	16人

⑤千葉市からの応援

(短期) 400人を超える職員を派遣

(中長期) 現在も職員4人を派遣継続中



千葉市で被害があった大災害

千葉市では2019年に3つの風水害が発生

①房総半島台風（9月9日）

千葉市に台風が上陸し、最大瞬間風速57.5m/sの記録的な暴風
→家屋の屋根の破損、倒木その他、広範囲で長時間の停電が発生

②東日本台風（10月12日）

房総半島台風を上回る規模の台風が接近
→進路がそれて大きな被害はなかったが、復旧途中の被災で避難者が過去最多の2,106人

③10月25日の大雨（10月25日）

1時間74.5mm、24時間329mmの記録的な大雨
→河川や内水氾濫その他、土砂災害により3名の犠牲者

- ・災害の経験を教訓として活かすため、「災害記録誌」を作成するとともに、電力の強靱化や土砂災害・冠水等対策などの取り組みをまとめた「災害に強いまちづくり政策パッケージ」を策定

災害記録誌▶



災害に強いまちづくり政策パッケージ▶



千葉市で想定される大災害

首都直下地震

マグニチュード7クラスの直下地震の発生確率：**今後30年間で70%**と推定

(文部科学省地震調査研究推進本部 (2025年1月))

【被害想定 (千葉市地震被害想定調査 (2017年3月))】

- ・ライフラインに大きな被害 (トイレ使用不可) が発生し、約30万人の避難者 (うち約18万人が避難所へ)
→ **現在、被害想定の見直しを実施中**
- ・能登半島地震を踏まえ、新たな調査を予定 { ○仮設トイレ、携帯トイレの必要数 ○災害関連死者数
○罹災証明書等の申請者数 ○要配慮者等の避難支援者数
- ・在宅避難の増加など、避難者数の見直し ※2026年7月頃、調査結果と対策方針を公表予定

想定最大規模の高潮

千葉市では津波だけでなく、台風による高潮の発生が想定

(2018年に千葉県が東京湾の高潮浸水想定シミュレーションを実施)

※想定最大規模：最悪の事態を想定した避難のための基準
(1000年以上に1度の発生確率)

【被害想定 (千葉市風水害被害想定調査 (2025年5月))】

- ・美浜区では全域に、中央区の約半分、市内各地の河川周辺の広い範囲で0.5メートル以上の浸水被害が発生
※浸水深が0.5メートル以上になると避難が困難
- ・約29万人の避難者 (うち避難所へ約10万人) が発生



昭和54年台風20号による高潮被害

高潮避難計画

避難の方針（2025年5月公表）

①早期避難

台風接近前に居住区の避難所に限らず、浸水想定区域外の安全な場所への避難

②分散避難

在宅避難を含めた避難所以外（車中泊、知人宅、ホテル泊など）への避難

■今後の取り組み

【2025年度】

市民説明会等の実施（避難に関する意見聴取）

【2026年度～2027年度】

高潮避難計画を策定し、動画等により周知

海岸付近だけでなく河川（遡上のおそれ）も避難対象となります。

津波と高潮の違い



能登半島地震を踏まえた対策

● 要配慮者の避難対策

- ・ 土砂災害警戒区域にお住まいの方など、特に支援が必要な方について個別避難計画を557件作成
- ・ 要配慮者ごとに適切な避難先を位置づけ

● 断水対策（トイレ）

- ・ マンホールトイレ2023年度までに市立学校166校に整備を完了し、2025年度からは県立高校に設置を拡大
- ・ 各種イベント等で個人での携帯トイレの備蓄を促す啓発キャンペーンを実施

● 罹災証明書の体制整備

- ・ 現地で行う住家被害認定調査にタブレットを用いる新システムを導入（2025年10月～）
- ・ 効率的な調査により、迅速に罹災証明書を発行し、市民の皆様の早期の生活再建に寄与

● 道路啓開

- ・ 災害時の救助迅速化のため、救援ルートを確保する関東ブロック単位の道路啓開計画を新たに策定中

インフラの耐震化

● 下水道施設や道路の橋梁などの耐震化を推進

- ・ 緊急輸送道路下や防災拠点、避難所下流などの下水管きよに対し、管更生工法（既設管の内面に新管を構築する工法）等による耐震化を推進（2028年度末目標：耐震化率86%）
- ・ 大規模地震発生時の避難・救援・物資供給ルートとなる緊急輸送道路等の橋梁について耐震化を推進

浸水及び老朽化対策

● 浸水対策の強化

気候変動の影響を考慮し、1時間あたりのピーク雨量を53.4 mmから65.1 mmに引き上げて浸水対策を実施
計画期間：2018年度～2037年度（20年間）

浸水リスクが高く、都市機能が集積している13地区を重点地区に位置付け

➡13地区のうち4地区で貯留槽の整備を実施中
今後、他地区へ整備拡大予定



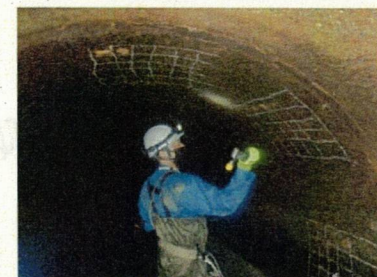
● その他、安全な下水道を維持するための取り組み

老朽化対策

年数の経過した管路のテレビカメラ調査などを実施し、修繕および改築を実施

下水道管の特別重点調査

埼玉県八潮市の事故を受け、調査を実施。
優先実施箇所の調査が終了。
経年劣化により一部の管路で腐食などはあったが、使用の継続に問題が無いことを確認



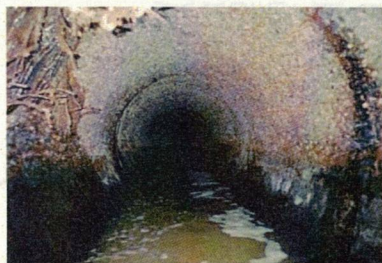
特別重点調査の様子

新しい技術を用いた取り組み

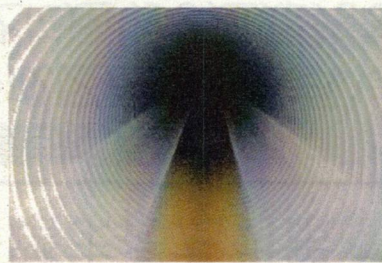
ドローンを用いた雨水貯留幹線の点検を実施



ドローン点検の様子



劣化した下水道管



内側に帯状のプラスチックを巻き立て修理した下水道管

避難所の環境整備

● 電力・通信の強靱化 **拡**

太陽光発電設備と蓄電池を備え、停電時でも使用できる電気を確保
太陽光発電・蓄電池設備の設置が難しい避難所にはポータブル蓄電池を配備
携帯電話基地局の電力維持、地域防災無線の強化

● 市立学校の体育館へのエアコン整備 **拡**

教育環境の整備及び防災機能強化のため、体育館へのエアコン整備を図る。
中学校、中等教育学校、市立高校、特別支援学校は今年度から設置し、
2026年度までに整備完了予定。小学校は2027年度以降順次整備。
→工事30校、実施設計29校（実施設計30校）



● マンホールトイレの整備 **拡**

避難所となる市立学校へ計画的に整備（2023年度末に計166か所整備完了）
2025年度以降、県立高等学校や公民館へ順次整備予定
（2025年度は県立高等学校6校に整備）
2025年度から多目的パネル上屋を配備

マンホールトイレ
（多目的パネル上屋）



※ 市でのトイレ設置・備蓄状況等

品目	マンホールトイレ （ ①下水道直結式 ②貯留式 ）	組立式仮設トイレ （ 貯留式 ）	簡易トイレ （ ワンタッチトイレ ）	携帯トイレ
整備数	①830基(166か所) ② 3基	169基	1,796基	352,610回分

避難所の環境整備

・その他、市での主な備蓄品

発災から3日間に必要となる最低限の物資（水・食料、衛生用品）や、避難所の開設・運営に必要な資機材を、各指定避難所や区拠点倉庫に分散して備蓄

〔市の主な備蓄品（2025年4月）〕

食料・飲料水

品目	食料 (アルファ米・クラッカー)	ペットボトル水
整備数	673,807食	544,606本

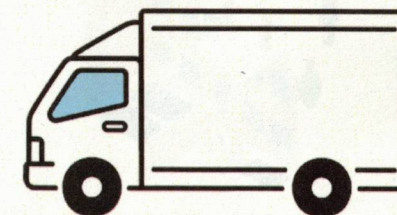
資機材

品目	毛布 (アルミ毛布含む)	発電機 (ガスパワー)	段ボール ベッド
整備数	80,172枚	315台	188台



・災害時応援協定に基づき運送事業者から物資を供給

運送事業者との災害時応援協定による、避難所等へスムーズに物資を供給できる体制づくり



・指定避難所におけるペット受入れが進むよう、「避難所開設・運営マニュアル」等を活用し、各避難所運営委員会に周知

・ペットの同行避難については、風水害発生時には事前設定したコミュニティセンター（各区1か所）を開設し地震発生時には各避難所の運営委員会が受け入れを判断(受入可能数:市内90か所、R7.9.25時点)

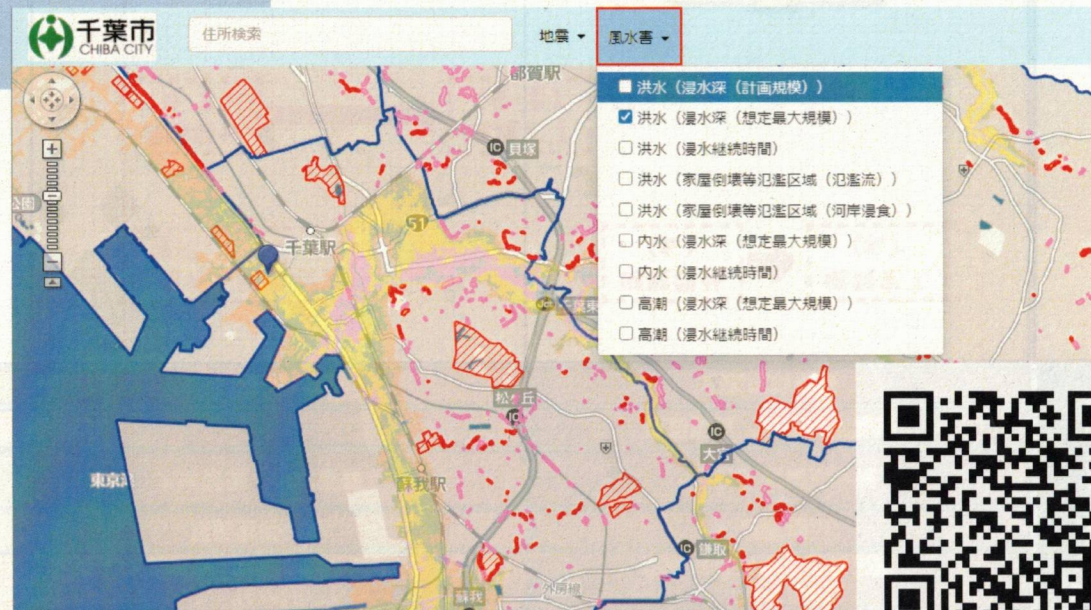
・指定避難所でのキッチンカーによる炊き出し等を実施し、適温の食事を提供

自分と家族を守るためにできること

1 ハザードマップを確認

- 自らの判断で適切に避難できるよう、あらかじめ自宅付近などの災害リスクや避難場所をハザードマップで確認
- 千葉市地震・風水害ハザードマップ（WEB版）で確認することも可能

千葉市 ハザードマップ 検索

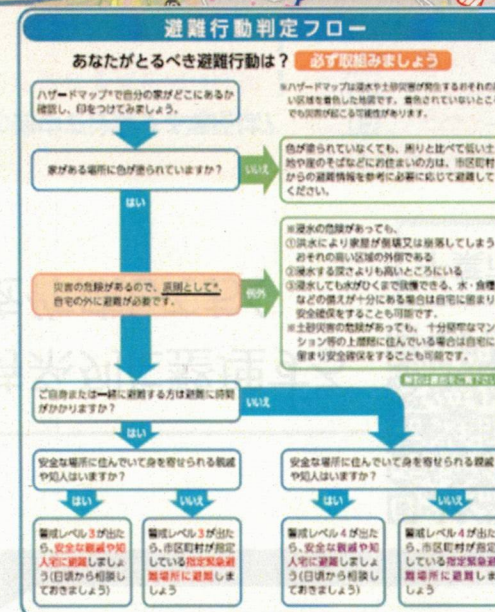


▲ハザードマップ

2 避難行動判定フローを確認

自らの命は自らが守る意識を持ち、
自宅付近などの災害リスクと、取るべき避難行動を確認

千葉市 避難行動判定フロー 検索



▲避難行動判定フロー

マイ・タイムラインの作成



千葉開府900年

千の葉に 時を刻んで 900年

- ・ 災害のリスクが高まるときに、自分や家族がとるべき行動を時系列に整理する
- ・ ハザードマップなどを確認し、家族と一緒にマイ・タイムラインを作成しておく

千葉市 マイタイムライン

検索

STEP 1 自宅の状況を確認

あなたの住んでいる地域は？
☐ 浸水想定区域 ☒ 土砂災害警戒区域
 住んでいる場所の浸水想定深は？
 【原因() 浸水深()】

STEP 2 連絡先・避難経路を決定

どこに避難する？

候補1 友人宅 【歩いて 約 10 分】⇒【土砂災害警戒区域は迂回】
 候補2 ○○中学校 【歩いて 約 20 分】⇒【 】

避難の途中で注意する場所は？

● 家族の連絡先／緊急連絡先

TEL ○○○ - ○○○ - ○○○ (友人)
 TEL ★★ - ★★ - ★★ (職場)
 TEL ××× - ××× - ××× (親戚)
 TEL - - ()

【警戒レベル】 取るべき行動		【レベル1】 災害への心構えを高める	【レベル2】 自主避難など注意の呼びかけ	【レベル3】 避難に時間がかかる人は危険な場所から避難！	【レベル4】 危険な場所から全員避難！	【レベル5】 災害の 発生または切迫！
避難情報 等			自主避難など	高齢者等避難	避難指示	
気象警報、 災害情報 等		早期注意情報 (警報級の可能性) テレビや気象庁 のHPを確認	大雨注意報／洪水注意報	大雨警報／洪水警報	土砂災害警戒情報	
			高潮注意報	高潮警報／高潮特別警報	高潮警報／高潮特別警報	
			氾濫注意情報	氾濫警戒情報	氾濫危険情報	
行動プラン	わたしと家族	天気予報の確認 作成したマイ・タイムラインの再確認 非常用持出袋の確認 家族の今後の予定や居場所を確認 友人宅に避難させてもらうことを依頼	携帯電話の充電 家の雨戸を開める ハザードマップで安全な経路を再確認 非常用持出品の準備	避難所の開設状況を確認 避難開始(母・妻) → 避難完了(母・妻)	避難開始(私) → 避難完了(私)	命の危険、直ちに安全を確保！
	地域		近所の人と避難方法などを情報交換	隣の高齢者宅に避難の呼びかけ	避難先への通り道にある家に声かけ	
気象状況(例)		大雨の数日～約1日前	大雨の半日～数時間前	大雨の数時間～2時間前程度		数十年に一度の大雨

浸水対策・危険な地下道



千葉開府 900年

千の葉に 時を刻んで 900年

浸水対策

- 集水桟の清掃

建物等への浸水を防ぐため、日ごろから集水桟の清掃などを実施することが大切。

市でも清掃やパトロールを実施

- 土のうの設置

だれでも自由に取り出せる「土のうステーション」の活用
(市内に77箇所設置)

集水桟の清掃



土のうステーション



設置場所
はコチラ



危険な地下道

- 市内の冠水注意箇所を確認

市のホームページで、地図や一覧で確認できる

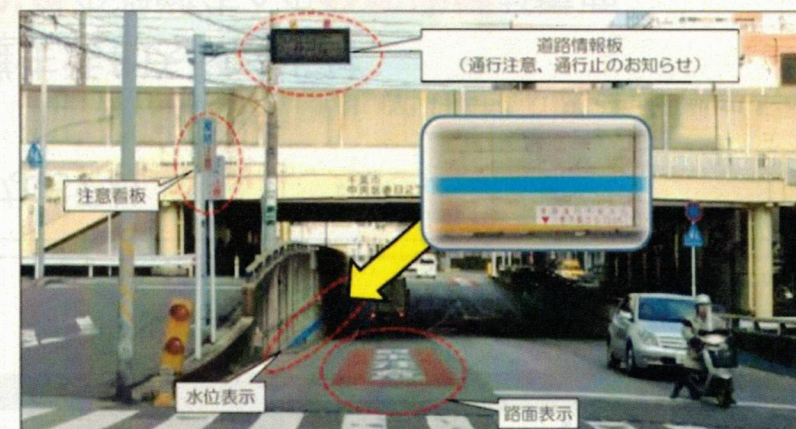
- 「千葉市地下冠水情報システム」で確認 **新**

市内13カ所の地下道の通行状況を、リアルタイムにWEB上で確認できる

➡「千葉市防災ポータルサイト」リンクから確認

- 道路情報板や壁面の水位表示等の確認

- 交通遮断機が設置されている場合は迂回



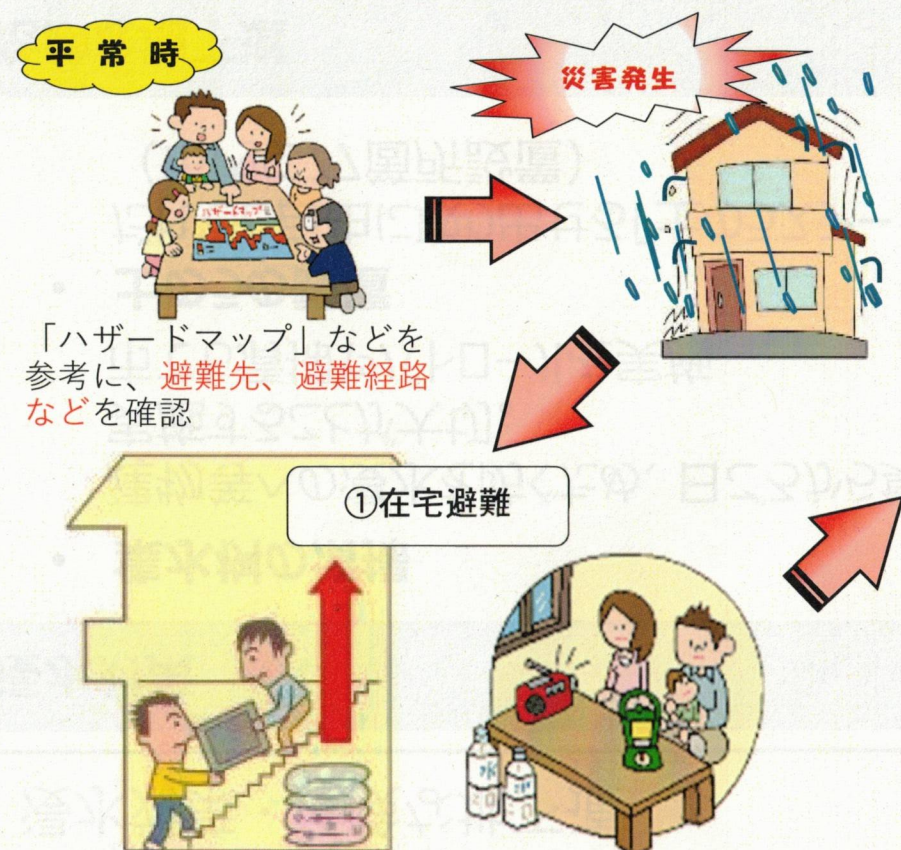
様々な避難先の検討（分散避難）

指定避難所への集中避難は、感染症予防やプライバシー確保が困難なおそれ

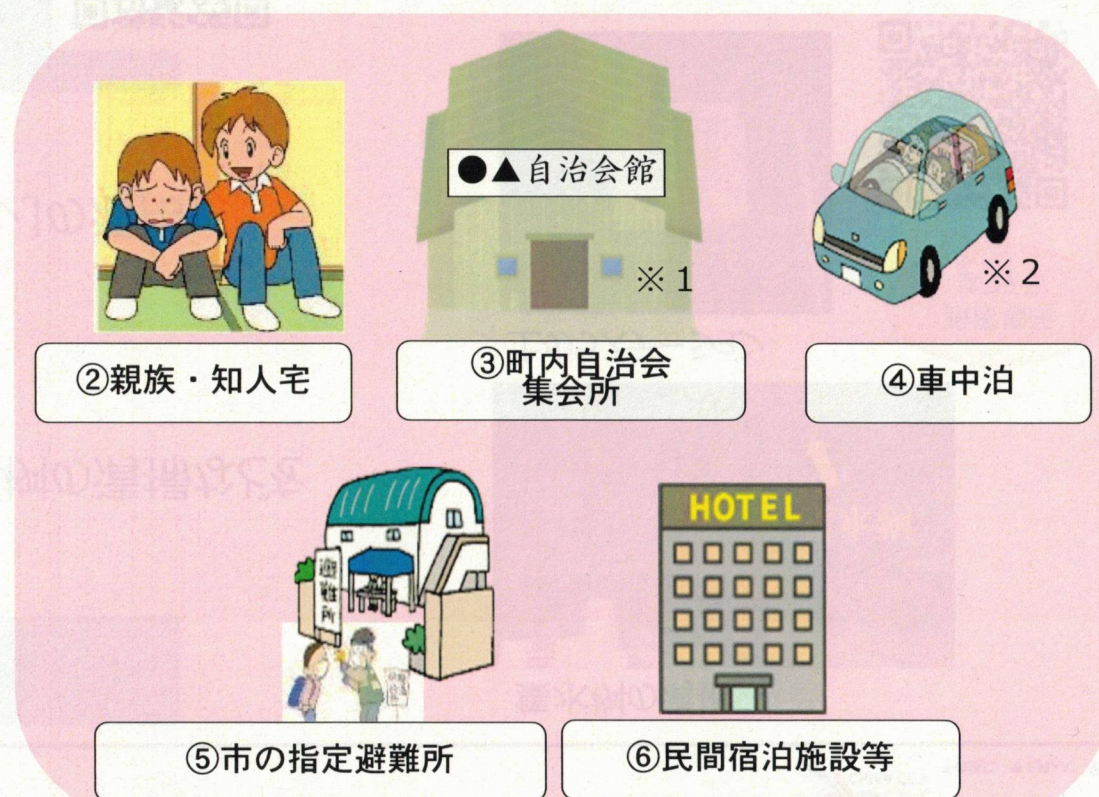
避難とは「難」を「避ける」こと。**安全が確保できるなら家が一番！**

避難者等一人ひとりができる限り普段の生活に近く、より健康的な避難生活を送るためには、

自宅、親族・知人宅、町内自治会集会所、車中泊等、**指定避難所以外**の避難先への**分散避難**が重要



浸水が想定される場合には、浸水する深さよりも高いところに避難（垂直避難）も検討



※1 町内自治会集会所を地域の避難施設として認定する制度を開始（2021年～）

※2 民間企業・団体などとの協定締結により、車中泊避難者等の受け入れ場所を確保

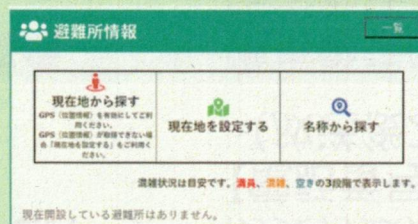
千葉市防災ポータルサイト

防災に関する情報を総合的に発信



避難所情報

開設している避難所を
検索できる。
混雑状況の目安も確認可能



水害情報

市内の雨量や、地下道の通行状況をリアルタイム
で確認できる

関連サイトリンク集

気象情報

水害情報

雨量観測システム
河川水位情報 (危機管理型水位計)
河川水位情報 (千葉県)
草野水のみち水位
坂月第2調整池水位情報
大雨時における避難情報の発令基準と対応 (草野水のみち)
千葉市地下道冠水情報システム

土砂災害情報

停電情報

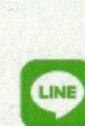
交通情報



通行状況

通行状況により色が変化

- **SNS 千葉市公式アカウント**
市政情報や災害時の緊急情報などを発信



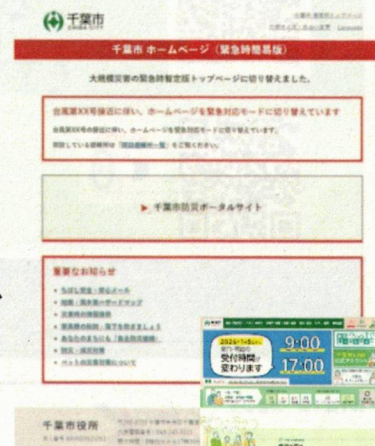
- **ちばし安全・安心メール**
避難指示などの緊急情報をはじめ、
防災・防犯情報をEメールで配信
登録は、entry@chiba-an.jp へ空メール



- **千葉市ホームページの
災害時表示**

災害情報を見やすく表示。
アクセス集中にも耐えられるよう、
表示を切り替えて情報を発信

大規模災害時のトップページ▶



通常のトップページ▶

緊急情報や発令中の避難情報も掲載

情報入手手段 ②

情報入手手段	内容・連絡先等
Yahoo!防災速報 アプリ	避難指示などの緊急情報に加え、地震・豪雨・津波などの情報を入手できる  
NHK ONEニュース・防災 アプリ	全国の最新ニュースや災害情報をいち早く入手できる地域を最大3つ設定でき、それぞれの気象情報や災害情報を得られる 
防災行政無線のテレホンサービス	防災行政無線で放送した最新内容を電話で確認できる 【電話番号】 050-5530-9907 （放送後24時間を過ぎた情報は確認不可）
電話・FAXによる災害時緊急情報配信サービス	携帯電話による緊急情報の入手が困難な高齢者などを対象に、固定電話やFAXに災害時の緊急情報を配信 ＜申請方法＞ ※登録要件あり 市HP・窓口（防災対策課、各区地域づくり支援課）で申請書を配布 窓口または郵送・メール・FAXから申請
多言語防災メール配信サービス等	・外国人在住者に、多言語（12言語）で防災情報をメール配信 ・「外国人市民のための防災ガイドブック」（7言語）を配布 【問い合わせ先】 千葉市防災対策課 TEL 043-245-5113 ・千葉市国際交流協会LINE外国人相談（7言語）で防災情報を配信

 多言語防災
メール配信サービス▶


家庭での備えの必要性



千葉開府 900 年

千の歳に 時を刻んで 900 年

- ・災害が発生すると、**電気、ガス、水道などのライフライン停止**のおそれ。
- ・物流が機能せず、**スーパーやコンビニで食料品が手に入らなくなる**おそれ。
- ・公的機関による支援は、**発災から72時間（3日間）程度は人命救助や災害応急活動が優先。**
そのため、被災者の生活支援がすぐに開始されるとは限らない。
→**最低3日分、できれば1週間分は自足できるように備えが必要。**

<発災後の時間区分に応じた業務内容（千葉市業務継続計画をもとに作成）>

時間区分	業務内容
～3時間程度	発災直後の人命救助・火災対応や災害応急活動体制の立ち上げを行う。
～24時間程度	人命救助・火災対応を継続するとともに、災害応急活動（帰宅困難者対策・要配慮者対策・インフラ点検等）を開始するほか、避難所の開設・運営を行う。
～72時間（3日間）程度	人命は、 72時間が経過すると生存率が急激に低下するため、優先的に人命救助 を行うとともに、避難所の生活環境の向上等を行う。
～7日間程度	被災者への救援救助を継続するとともに、 被災者に対する生活支援を開始 する。 また、行政機能の回復に向けた取り組みを進める。

家庭での備蓄

● 食料品や日用品

みんな違う、我が家に合った備蓄品

一人一人必要なものが異なります。
各家庭の実情に合わせたものを備えましょう。

- ・ 発災後、数日間（最低3日分、できれば1週間分）を対応できるように、家族構成などを考慮した準備が必要
- ・ 乳幼児や高齢者、食事療養を受けている方などがいる場合は、その家族に合わせた食品なども備えが必要
- ・ 備蓄の手法はローリングストックがおすすめです。

ローリングストックのイメージ 少し多めに購入



古いものから順に消費し、減った分を補充する。

● 携帯トイレ

ご自宅に 備えて安心！携帯トイレ

災害時はトイレが使えなくなるかもしれません。
今すぐに携帯トイレを準備しましょう。

備蓄推奨量

1人1日5回×家族の人数分×7日分以上



・ 単身世帯の場合

約35回分必要

・ 4人家族の場合

約140回分必要



災害時の
トイレ対策HP▶

**【参考】東京備蓄ナビ**（東京都防災HP）

3つの質問に答えるだけで、
ご家庭に合わせた備蓄品目と
必要量のリストが表示されます。

家具転倒防止対策・感震ブレーカー

●家具転倒防止対策事業

自ら家具転倒防止金具等を取り付けることが難しい
高齢者・障害者世帯に対して、費用の一部を助成

【対象となる方】

65歳以上の高齢者のみの世帯や
重度障害者のみの世帯など

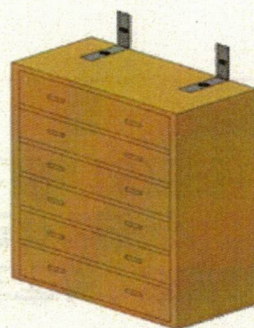
【助成対象費用】

出張料 5,000円を上限

取付費用 家具1台あたり500円を上限（5台まで）

※助成額を超えた場合の差額及び金具代は
利用者負担

※助成は1世帯1回限り



【問い合わせ先】

お住まいの区の保健福祉センター高齢障害支援課
（高齢支援班・障害支援班）へ

千葉市 家具転倒防止対策事業

検索



●感震ブレーカー設置費用助成事業

◆感震ブレーカーとは、地震発生時、電気に起因する
出火を防止するため、揺れを感知すると住宅内の電気を
遮断する機器のこと

◆対象の町内自治会へ購入費用の一部を助成

【対象となる方】

密集住宅市街地（要改善市街地11地区）の町内自治会

【助成対象費用】

対象商品 感震ブレーカー等（簡易タイプ）

助成費用 補助率1/2

1世帯あたりの補助上限3,000円

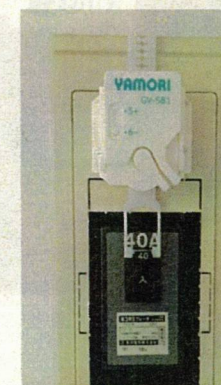
※今年度の募集は締め切りました。

【問い合わせ先】

千葉市消防局予防課へ

千葉市 感震ブレーカー

検索



簡易タイプの
感震ブレーカー



住宅の耐震化支援

補助申請受付：2026年5月（瓦屋根6月）

リーフレット配布：2026年4月～各区役所にて配布（HP掲載）

千葉開府900年
CHIBA CITY 900th
千の葉に 時を刻んで 900年

●千葉市木造住宅耐震診断費・耐震改修費補助制度

○木造住宅耐震診断費補助

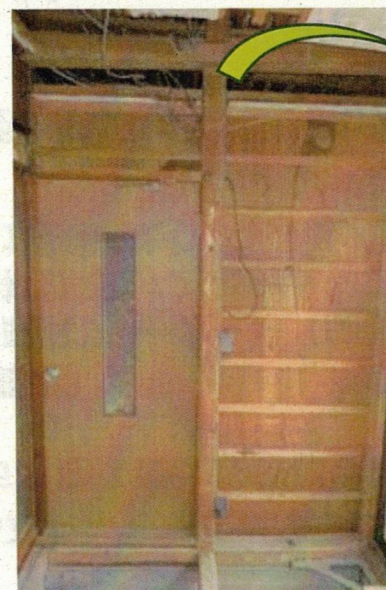
対象：1981年5月以前の住宅

補助額：診断費の5分の4（上限96,000円）

○木造住宅耐震改修費補助

対象：2000年5月以前の住宅かつ診断の結果、
耐震性がないと判断された住宅

補助額：工事費の5分の4（上限115万円）



●その他補助制度

○分譲マンション耐震診断・改修補助

○住宅除却費補助

対象：いずれも1981年5月以前のもの

○瓦屋根耐風診断・改修補助

対象：2021年12月以前の
基準で建築されたもの



事前相談受付中

【問い合わせ先】

建築指導課 TEL 043-245-5836

千葉市 耐震診断

検索

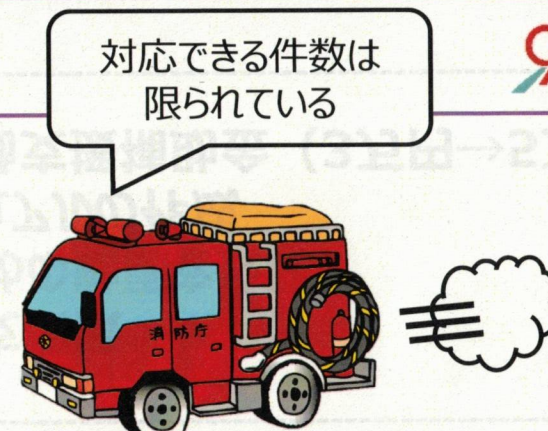


地域の助け合いが命を救う

倒壊家屋からの脱出（阪神・淡路大震災）

① 自力・近所の助け → **98%**

② 消防・警察などの救助 → 2%



自主防災組織（災害による被害の予防・軽減するために結成した組織）

結成数1,018組織 活動カバー率 97.6%（2025年6月時点）

【助成制度】

- ①設置助成：防災用品の供与（ボール、ジャッキ、消火器等から選択）
- ②活動助成：防火防災訓練時に要した消耗品や食料、印刷製本費などの費用
- ③資機材購入・賃借助成及び再助成：担架、リヤカー、投光機、簡易便所、給水袋など

助成制度の
ご案内はこちら▼



【自主防災組織の取組みの一例】

- ・「無事です」と文字が書かれたタオルを配布し、災害時の安否確認に活用
- ・自主防災組織への加入世帯に対し、防災協力マニュアルを作成・配布

【資機材購入・賃借助成の活用事例】 停電発生時に備えた発電機の購入

【自主防災組織の活動支援】 訓練用資機材（初期消火用資機材、煙体験ハウス）の貸与

地域の助け合いが命を救う

避難所運営委員会



↑ 防災用テント（間仕切り型）



↑ 段ボールベッド・パーティション

発災直後の混乱の中でも、

命を守るためには最低限のことを、自ら行っていく必要がある

避難所となる施設を中心に町内自治会等の地域の団体が連携し、
平常時から避難所の開設・運営の体制づくりを行っている

結成数(結成率) (2025年9月末)

● 結成数 270か所

中央 : 53(100%) 花見川 : 48(100%) 稲毛 : 42(100%)
若葉 : 46(100%) 緑 : 34(100%) 美浜 : 47(100%)

★ 避難所運営委員会への支援策 ★

○避難所開設・運営のための動画を公開

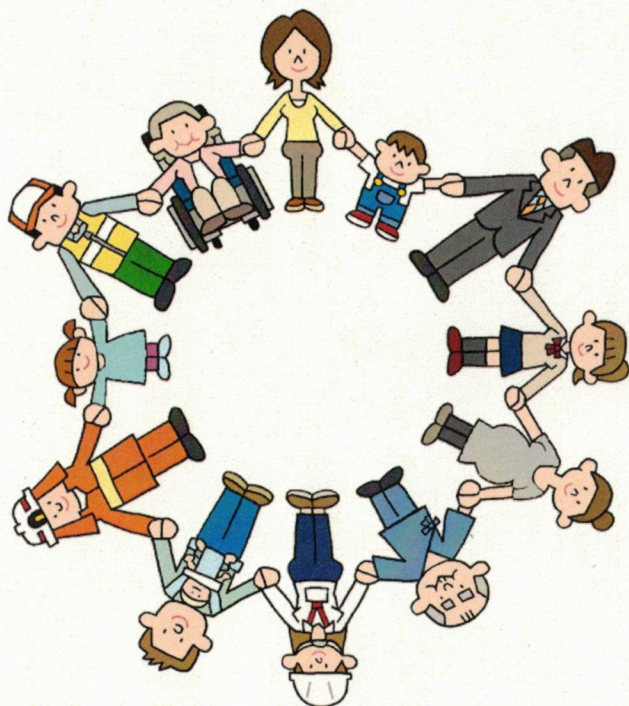
○避難所開設・運営マニュアルの作成

○避難所運営委員会活動支援補助金（3万円→5万円に増額）

災害時の避難所運営

避難所運営委員会のルールに基づき、避難者自身が運営に加わる。

地域の助け合いが命を救う



地域団体の皆様へお願いしたいこと

- ・見守り・声かけ・助け合い
- ・ハザードマップの確認
- ・情報共有、地域同士のつながり

地域を守れるのは、地域を一番良く知る皆様です！